

科目名	失語症Ⅱ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 失語症について医学的観点からその基礎となる領域について学び、今後の言語治療に役立てることができる。臨床現場における言語治療の進め方を把握し、言語訓練の技法や心理的側面へのアプローチ法などを習得できる。								
【実務者経験】 幸生病院・ドレミリハビリテーション・機能訓練教室にて、言語聴覚士として失語症者や運動性構音障害者の訓練に従事する。								
【授業全体の内容の概要】 失語症と周辺の言語症状について評価・診断・訓練の基本的な知識と技術を身につける。臨床現場における言語治療の流れを把握し、失語症者に適切かつ正しい訓練法を身につける。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 失語症の基礎を身につけ、言語治療の枠組みを理解できる。失語症の言語療法に必要な実践能力を身につける。								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	失語症の定義・失語症の言語療法の流れ・失語症のタイプ分類について理解できる。						配布資料	
2	失語症の言語治療の理論と技法(具体的な提案)、教材を知ることができる。						配布資料	
3	認知神経心理学的情報処理モデルの理解ができる。①						教科書	
4	認知神経心理学的情報処理モデルの理解ができる。②						教科書	
5	症例Ⅰの標準失語症検査結果から、言語治療評価報告書の作成技能を身につける。						配布資料	
6	失語症者(症例Ⅱ)の紹介を通して情報収集(言語面・医学面・生活面・社会面)ができる。						教科書・資料	
7	症例Ⅱの言語治療評価報告書の作成技能を身につける。						教科書・資料	
8	訓練プログラムの立案(長期目標・短期目標・訓練内容・訓練の手順など)ができる。						教科書・資料	
9	訓練計画に基づく教材作成ができる①						教科書・資料	
10	訓練計画に基づく教材作成ができる②						教科書・資料	
11	言語訓練の予行演習を通して技能を身につける。						教科書・資料	
12	言語訓練の実習を通して技能を身につける。(訓練の様子を録画する)						配布資料	
13	言語訓練の様子をVTRで確認し、問題点などを抽出できる。						配布資料	
14	症例報告書の作成ができる。①						配布資料	
15	症例報告書の作成ができる。②						配布資料	
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 失語症学 なるほど!失語症の評価と治療 検査結果の解釈から訓練法の立案まで								
【準備学習・時間外学習】 予習としてテキストを読んでおくことや講義後の復習、検査の練習や訓練計画、訓練材料の準備が必要です。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 小テストを10点、定期試験を90点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。								